

国語科学習指導案

单元名：言葉をよりすぐって俳句を作ろう

「日常を十七音で」

(全3時間扱い中 第2時)

授業日時 2019年8月30日(金) 第5校時

授業学級 5年東組

授業会場 5年東組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

児童は、自分の思いを表現するために、句全体の構成を工夫して俳句を作ることが出来る。

(2) 授業のポイント

- ・季語を用いての文章の作り方を知った子ども達が、夏休み中の経験や感じたことを短い文章で表現した。【前時までの子どもの様子】
- ・俳句の工夫に気付くことを通して、それを自分で作る俳句にも生かす。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材・◎児童の反応	時間
導入	1.俳句を読む	◇静かな空間の中で松尾芭蕉の俳句を読む「古池や 蛙 飛びこむ 水の音」 ★俳句を書いた模造紙を黒板に貼る ◇この文章が俳句であることと作者、俳句になるために必要なことを確認する 「この俳句を読んでどんな景色が浮かびますか。」 ◎「かえるが池に飛び込んだ。」「石で囲まれた池にポチャんとカエルが入ってそう。」 「俳句にすると見た景色や感じたことをリズムのいい五・七・五で表すことが出来ます。」 「夏休み前に、夏をイメージして俳句を作りましたね。実際に夏休みを過ごしたみなさんは、もっと素敵な俳句を作ることができると思うのですが、どうでしょうか。」	5分
展開	2.前時に作った文章を基に、好きな文章をひとつ選び俳句を作る 3.工夫の仕方を知る 問題：2つの俳句の違い、変わった印象は何かを考える	★前時のワークシートを出すように促すとともに、新しいワークシートを配る ★短い文章と、俳句①を貼る ◇季語に意識が向くように、文章中にある季語に線を引く ★俳句②を貼る ○「同じことを表現したのですが、2つを読み比べて、何か違うなと思ったことがある人はいますか。」 (意図)子どもが、詩の工夫や表現の工夫、それによって印象が変わることに気付く ◎「②は音が出てきた。」「②の方が勢いがありそう。」	5分 5分

展 開		「②の方がセミが速そう。」 ◇どんな思いを伝えたくて工夫したかを伝える。 ○「表現の仕方を変えると、違った印象になります。自分の思いをより伝えるためにどんな工夫が出来ると思いますか。」 ◎「比喻を使う」「音を入れる」	
		【学習問題】表現を工夫して、思いがより伝わる俳句を作ってみよう	
	4.工夫して俳句を作る 元の句と新しい句を発表する	★パワーポイントで、工夫を使った例文を示す ◇工夫したところに気付けるように、一つ一つどんな工夫がありそうかを聞き、どんな工夫の仕方があったか簡単に黒板に書く ◇机間指導の際にみんなに紹介したい俳句を探し、作ることが出来ずに困っている児童が参考にできるように途中で紹介する ★紹介したい俳句を iPad で撮影する 元の句と工夫した句を発表する ★撮った 2 つの句をモニターに映す ○「工夫したところと、それによってどんな風が変わったか教えてください。」 (意図)子どもが、それぞれのした工夫とその効果に気づき、次の俳句作りに生かせるようにする	10 分
	5.自分で作った中のお気に入りの一句を選ぶ	残っている文章を使って、俳句を作る ◇色々な俳句を作ることが出来るように、早く終わったら新しい俳句を作るように伝える 「自分で作った中でお気に入りの一句を選びましょう。」 【評価（対象）】伝えたいことを、表現の仕方を工夫して俳句にしている（ワークシート）	11 分
終 末	6.振り返り	「今日は俳句で、伝えたいことをより出すためにどんな工夫の仕方があるかを知りました。分かったことや感想など、書きたいことを自由に書いてください。」	5 分
			3 分